

令和4年度

第2回江別市緑化推進審議会

日時 令和5年3月14日（火）

午前10時00分～

場所 江別市民会館37号室

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事

報告事項

報告第1号 第2次江別市緑の基本計画の策定について

4 その他

5 閉 会

【配付資料】

資料1 第2次江別市緑の基本計画骨子案

参考資料1 検討のための基礎資料

参考資料2 骨子案の考え方について

■江別市緑化推進審議会委員名簿（第13期）

令和3年8月1日現在

□委員の任期：令和3年8月1日～令和6年7月31日（3年間）

（区分ごとの50音順）

区分	氏 名	所 属 団 体 等
学識経験者	おお はら まさし 大 原 雅	北海道大学大学院 地球環境科学研究所 教授
	ごう さとし 郷 敏	野幌森林愛護組合
	こ さか しん いち 小 阪 進 一	酪農学園大学 名誉教授
	みや しゅん すけ 宮 俊 輔	国立研究開発法人森林研究 ・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター北海道育種場
市長が必要と 認める者 （関係団体等）	かわ むら すみ こ 河 村 純 子	江別市女性団体協議会
	きく ち いく み 菊 地 郁 美	（一社）江別青年会議所
	さ が ひろ こ 佐 賀 弘 子	江別市赤十字奉仕団
	た はら ひさ お 田 原 壽 夫	江別市自治会連絡協議会
市長が必要と 認める者 （市民公募）	いし ざわ ま き 石 澤 真 希	
	ふじ おか しょう いち 藤 岡 章 一	
	計10人	

□委員定数：10人

1. 江別市の緑の現況

【公園面積の現状と目標達成状況】

- ・江別市の公園の面積は、令和3年で201haです。
- ・平成13年当初の面積（198ha）と比べると20年で3ha増加していますが、令和5年の目標値227haには未達です。
- ・市民1人当たり公園面積は、令和3年で16.84㎡/人です。
- ・平成13年当初の面積（16.19㎡/人）と比べると20年で0.65㎡/人増加していますが、令和5年の目標値19.8㎡/人には未達です。

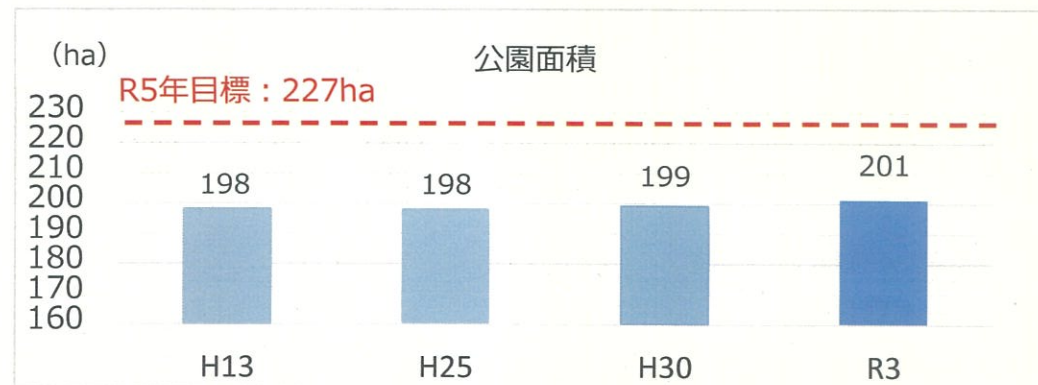


図1-8 公園面積の推移

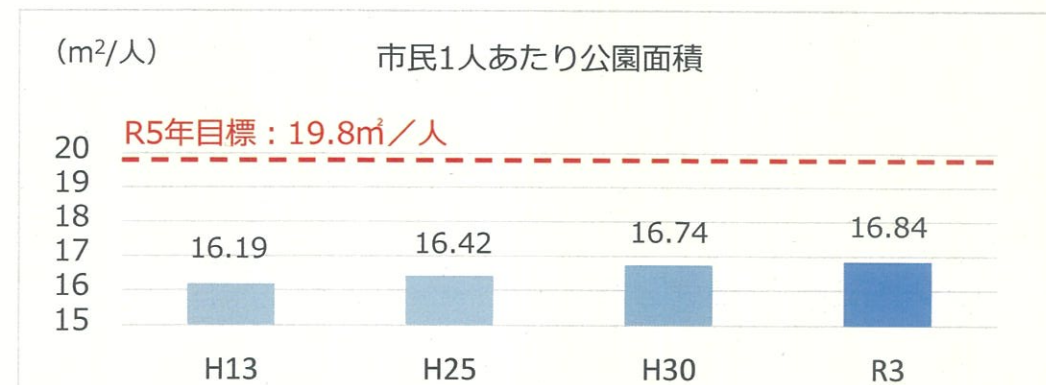


図1-9 市民1人当たり公園面積の推移

表1-3 公園面積の現状と目標達成状況

項目	H13当初	R5目標	H25時点	H30時点	R3現況	現況から目標値までの差
整備する公園 総面積 (ha)	198	227	198	199	201	▲26 (未達)
市民1人当たり公園 面積 (㎡/人)	16.19	19.8	16.42	16.74	16.84	▲2.96 (未達)

資料：江別市調べ

第 2 次江別市緑の基本計画 骨子案

令和 5 年 3 月 1 4 日時点

江別市

1.緑の基本計画とは

(1) 計画策定の背景

江別市緑の基本計画（以下、「本計画」という。）は、都市緑地法に基づき、緑地の保全や緑化の推進に関して、将来像、目標などを定める緑に関する総合的な計画であり、江別市では平成 16 年（2004 年）3 月に策定し、平成 26 年（2014 年）には現況の変化に即した見直しを行い、緑地の保全及び緑化の推進に関する様々な取組を行ってきました。

近年、地球温暖化問題や人口の減少、少子高齢化など社会情勢は変化を続けており、市民協働による持続可能なまちづくりが求められています。

(2) 計画策定の目的

本計画は、現計画が令和 5 年度（2023 年度）に終期を迎えることから新たな計画として策定し、上記の背景を踏まえ、今後あるべき緑の将来像及びそれを実現するための取組を推進することを目的としています。

(3) 計画の位置づけ

本計画は、北海道で定めた「札幌圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」並びに「北海道みどりの基本方針」の趣旨を反映した地域性を活かした計画であり、「第 7 次江別市総合計画」を上位計画とし、「江別市都市計画マスタープラン」のほか、「江別市環境管理計画」、「江別市地域防災計画」、「江別市景観形成基本計画」など各分野の計画との整合のもとに定めるもので、これら計画と一体となって江別市が目指す緑の将来像を実現していきます。

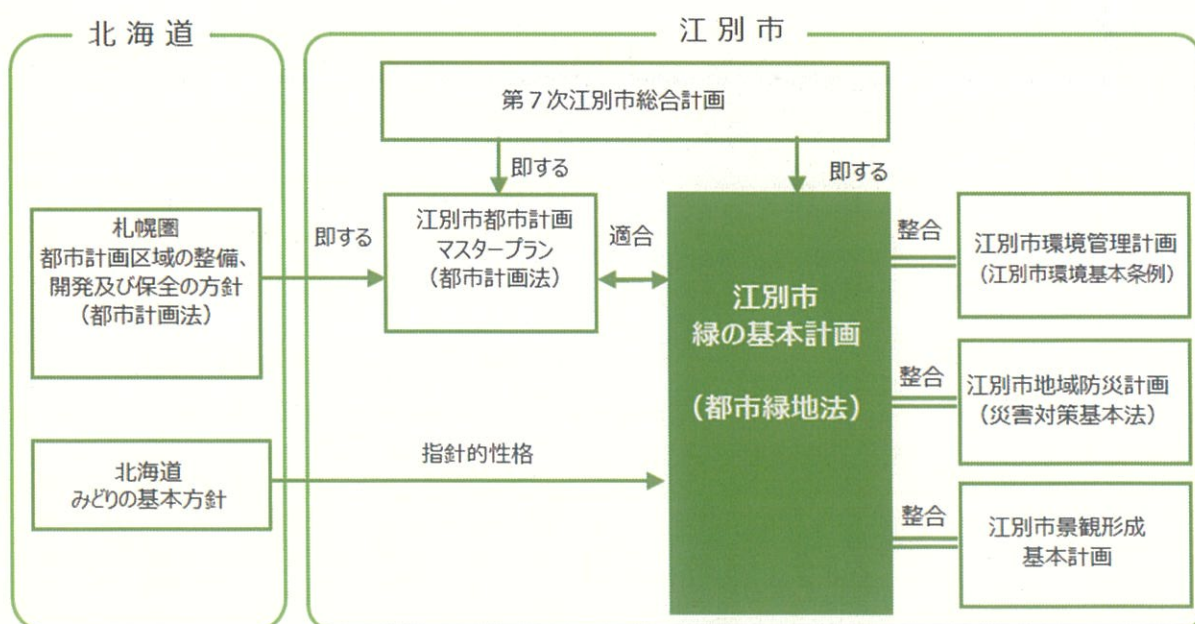


図1 計画の位置づけ

(4) 計画の範囲と対象

本計画で取り組む緑の範囲は、江別市都市計画区域（＝行政区域）とします。

対象となる緑は、市内の公園、森林、水辺地、街路樹、公共施設の植栽地、民間の樹林地などの場所や樹木や草花などを緑と位置づけます。

また、緑を「まもる」「そだてる」「いかす」などの活動も計画の対象とします。

(5) 計画の期間

本計画における計画期間は、始期を上位計画である「第7次江別市総合計画」に合わせて、令和6年度（2024年度）とし、令和15年度（2033年度）までの10年間とします。

また、計画の達成状況や社会情勢・環境情勢の変化などを勘案しながら、必要に応じて見直しを行うこととします。

(6) 計画の進行管理

本計画で定めた目標が達成されているかを把握し、施策の進捗状況を確認するとともに、マネジメントの基本であるPDCAサイクルによって、適切な検証・進行管理を行います。

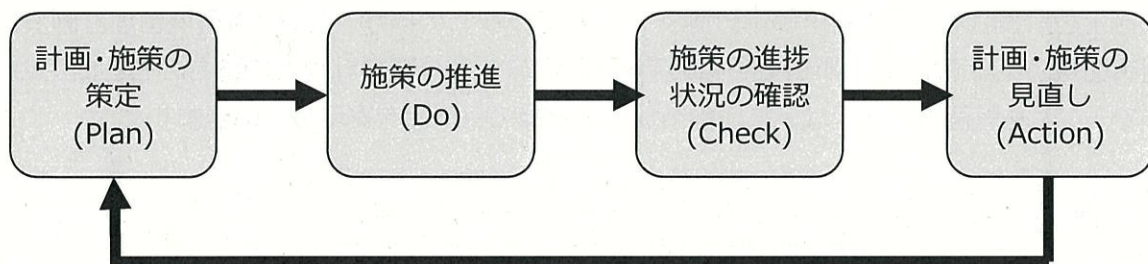


図2 進行管理

2.江別市の緑の現況と課題

(1) 緑の特性、現状

江別市の緑の状況は令和3年の現況で、樹林地、草地、農地、水面、裸地の合計の緑被面積が、市全体では行政面積 18,738ha に対し、15,233ha で約 81%であり、市街化区域内では 2,938ha に対し 639ha で約 22%となっています。

近年は市街化区域内の宅地開発などにより若干の緑の減少はありますが、市全体の面積の約 10%を占める野幌森林公園をはじめ、石狩川を含む 42 の河川、農村部の耕地防風林、鉄道林など多くの緑を有しており、「緑に親しめる空間があると思う市民割合」も高い割合となっています。



図3 江別市の緑の状況（令和3年6月9日撮影航空写真より）

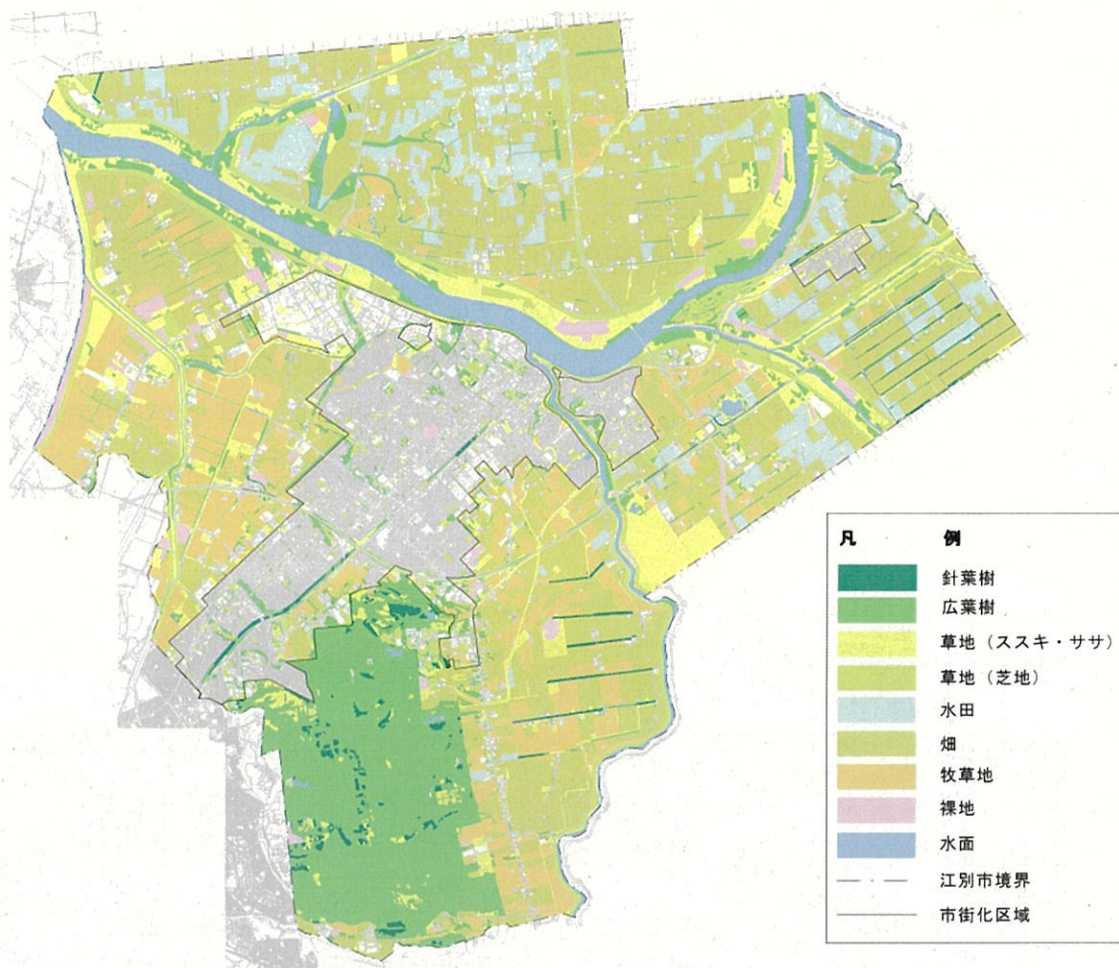


図4 江別市の緑被の状況（令和3年6月9日撮影航空写真より）

まちづくり市民アンケートで、「緑に親しめる空間があると思う市民割合」は、アンケート調査を開始した平成25年（2013年）から増加しています。

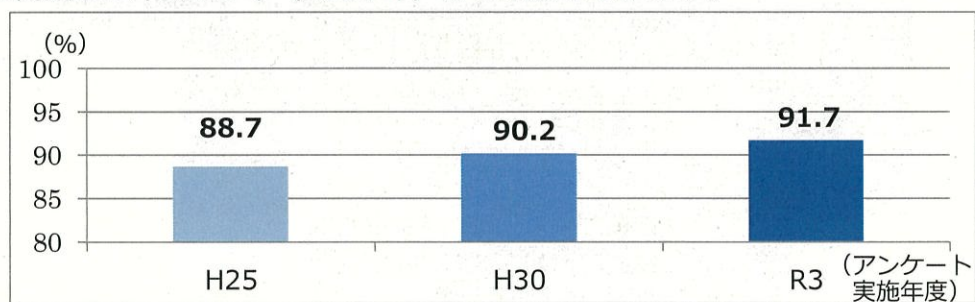


図5 緑に親しめる空間があると思う市民割合の推移

令和3年（2021年）の市民1人当たり公園面積は16.84㎡で、前期の緑の基本計画を策定した平成14年（2002年）から増加しています。

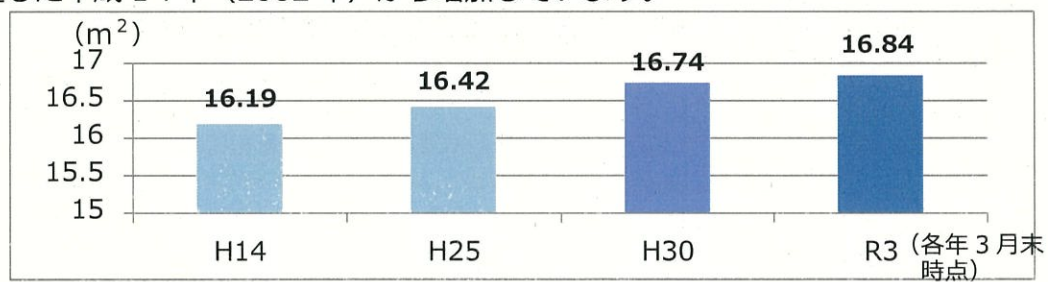


図6 市民1人当たり公園面積の推移

(2) 緑づくりを取り巻く動向

①国・道の動向

- ・国では、平成 30 年（2018 年）閣議決定した「第五次環境基本計画」において、分野横断的な 6 つの重点戦略（経済、国土、地域、暮らし、技術、国際）を設定しています。
- ・その中でも、緑については、
 - 「国土」（生態系の活用や森林整備・保全）
 - 「地域」（森・里・川・海の保全再生・利用や、都市と農産漁村の共生・対流）
 - 「暮らし」（良好な生活環境の保全）が関連づけられています。
- ・北海道では、平成 31 年（2019 年）に策定した「北海道みどりの基本方針」において、これからの都市の「みどり」のあり方について以下の方向性を打ち出しています。
 - 「量を確保する時代」から、「質を向上する時代」へ
 - 官と民の連携による取組
 - 緑を柔軟に使いこなす取組の実践

②江別市の関連する主な計画

- ・江別市では、令和 5 年度（2023 年度）策定の「第 7 次江別市総合計画」において、基本理念の一つとして「自然とともに生きるまち」、将来都市像として『幸せが未来へつづくまち えべつ』を掲げています。また、緑に関する取組の基本方針として「水と緑の保全」、「安全で快適な公園環境づくり」を位置づけています。
- ・令和 5 年度（2023 年度）改定の江別市都市計画マスタープランにおいて、都市づくりに関する各分野の方針ごとに緑づくりに関する内容が位置づけられています。
 1. 土地利用の方針（市街地周辺部の農業地や河川、野幌森林公園の保全・活用など）
 2. 都市施設整備の方針（公園施設の長寿命化や再整備、市民協働による維持管理など）
 3. 都市環境の方針（都市防災：公園の指定緊急避難場所機能、延焼防止帯の確保など）
（景観：花のある街並みづくり運動、工場敷地などの緑化推進など）
（環境共生：水と緑の保全とネットワーク形成、自然環境保全による脱炭素化 など）

(3) 課題

①緑の確保・整備に関する課題

- ・緑は量的に充足しているという認識に立ち、今ある緑の適切な保全及び維持管理が必要
- ・今後、人口減少や少子高齢化が予想されることから、市の財政規模にあった維持管理、更新費用の平準化、最適化が必要
- ・都市や地域の課題解決や、地域のまちづくりに貢献する緑の役割は今後も大きい

②緑の質・機能・役割に関する全体的な課題

- ・これからの都市の緑のあり方については、「量を確保する時代」から「質を向上する時代」へ入っていくことから、これまでの緑の機能をさらに掘り下げ、防災・減災や地域活性化、少子高齢化対応など、地域の課題解決に貢献する緑づくりが必要

- ・国内外の緑をとりまく動向が変化していることから、SDGs、脱炭素まちづくり、生物多様性といった国際的な取組・枠組への貢献も意識していくことが必要

③緑の質・機能・役割に関する機能別の課題

○環境保全系統

- ・野幌森林公園、石狩川や周辺の湖沼、鉄道林、防風林といった骨格的な緑を将来の世代へ引き継ぐため、今後も保全と活用が必要
- ・野幌森林公園や石狩川を活かした環境学習、自然とのふれあい、農地を活かした農村との交流が求められることから、これらの活動に資する緑の維持保全が必要
- ・緑は快適な都市環境を提供するとともに、環境への負荷の軽減や生物多様性の確保にも資することから、市街地も含めた人と自然の共生する環境の形成・維持が必要

○レクリエーション系統

- ・スポーツやレクリエーションができる公園など、人の心に潤いや安らぎをもたらす核となる緑地の適切な確保が必要
- ・高齢化への対応や子育て支援のニーズも踏まえ、市民の健康増進、コンパクトで歩いて暮らせるまちづくりに資する、緑のネットワークの確保が必要

○防災系統

- ・気候変動に伴い激甚化、頻発化する各種の自然災害等に対応するため、これまでの避難場所や避難路の確保、市街地内の延焼防止に加え、水害、土砂災害のリスク低減に資する緑の適切な維持・保全が必要

○景観構成系統

- ・生活拠点や交流の場、産業活動の場における、効果的な緑の活用が必要
- ・江別らしい街並みや風景を彩る緑の保全や緑化の推進が必要

④緑と市民との関わりに関する課題

《参加・協働》

- ・緑づくりは行政だけでなく様々な主体の関わりが大切であることから、官民連携を含めた緑の維持管理・更新が必要
- ・地域や事業者の創意工夫による花や緑の街並みづくりが必要

《利活用》

- ・これまで野幌森林公園や石狩川での活動・交流の場が設けられてきており、今後もこれらの継続的な確保が必要
- ・農地を活かした農村との交流に資する活動の場のさらなる確保が必要
- ・コミュニティ維持や地域の活性化に資する緑の活用が必要

《情報提供、担い手・体制づくり》

- ・情報を分かりやすく伝えるほか、必要な時に必要な情報が届くよう広報・ホームページに加え、SNS等多様な手段による情報提供のさらなる工夫が必要
- ・市固有の緑資源を学びの場として生かした、緑の保全・緑化の意識醸成が必要

3.基本理念と基本方針

(1) 基本理念

現計画では、『「^{みどり}原始林・水・らしさ」を感じるほっとするまち江別』を緑のまちづくりのテーマとして緑づくりに取り組んできました。

江別市においては、少子高齢化の進行や自然災害の影響により社会経済情勢が大きく変化しています。また、国内外では脱炭素社会の実現や持続可能な開発目標（SDGs）への対応などが求められています。そうした中で今後の緑のまちづくりを進めていくため、本市の上位計画である「第7次江別市総合計画」で示されている将来都市像「幸せが未来へつづくまち えべつ」に即して、以下のとおり設定します。

(2) 基本方針

市民協働による様々な取組を通じて、緑に対してどう関わっていくかの観点から、「まもる」、「そだてる」、「いかす」の3つを計画の基本方針とします。

基 本 理 念

「みどり・水・らしさ」とともに
(案)

・ 自然の豊かさが未来へつづくまち えべつ

・ 心豊かに住み続けられるまち えべつ

11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



15 陸の豊かさも守ろう



基 本 方 針

01

まもる

江別市の緑の要となる野幌森林公園や、緑の骨格となる石狩川、鉄道林、耕地防風林をはじめとする森林・樹林地、河川や湖沼の緑をまもり、将来の世代へ引き継いでいきます。

02

そだてる

都市の緑を補完し街並みを形成する公園や公共施設、道路の緑について、協働で維持管理、緑化を進めます。

03

いかす

緑を学びの場や景観づくり、健康で心豊かな暮らしの実現など市民生活の様々な場面で活かすとともに、防災・減災や生物多様性の保全など様々な課題の解決に役立てます。

(3) 緑の将来像 (暫定)

緑の将来像は、市民が日常生活を通じて身近な緑と水と江別らしさが感じられ、その豊かさが“未来へつづくまち”、をつくることです。具体的には緑の要である野幌森林公園や骨格となる石狩川、鉄道林、耕地防風林をはじめ、住宅地、公園、道路、公民館などの公共施設、中小河川などの身近な緑や水辺が充実し江別らしさが実感できるまち、さらに通勤通学や買い物、休日の散歩やレクリエーションなどの日常生活において緑に囲まれた潤いと安らぎを感じるまちとし、市民、事業者、行政がともにこの将来像を共有し協働して緑豊かなまちづくりを進めるまちにします。



図 7 緑の将来像図

《緑のネットワーク》

○東西ネットワーク

・大森地区鉄道林～大森西公園～大森中央公園～大森第2緑地～東西グリーンモール～四季のみち～江別地区鉄道林～石狩川～豊幌地区鉄道林からなる東西の緑のネットワークを形成します

○南北ネットワーク

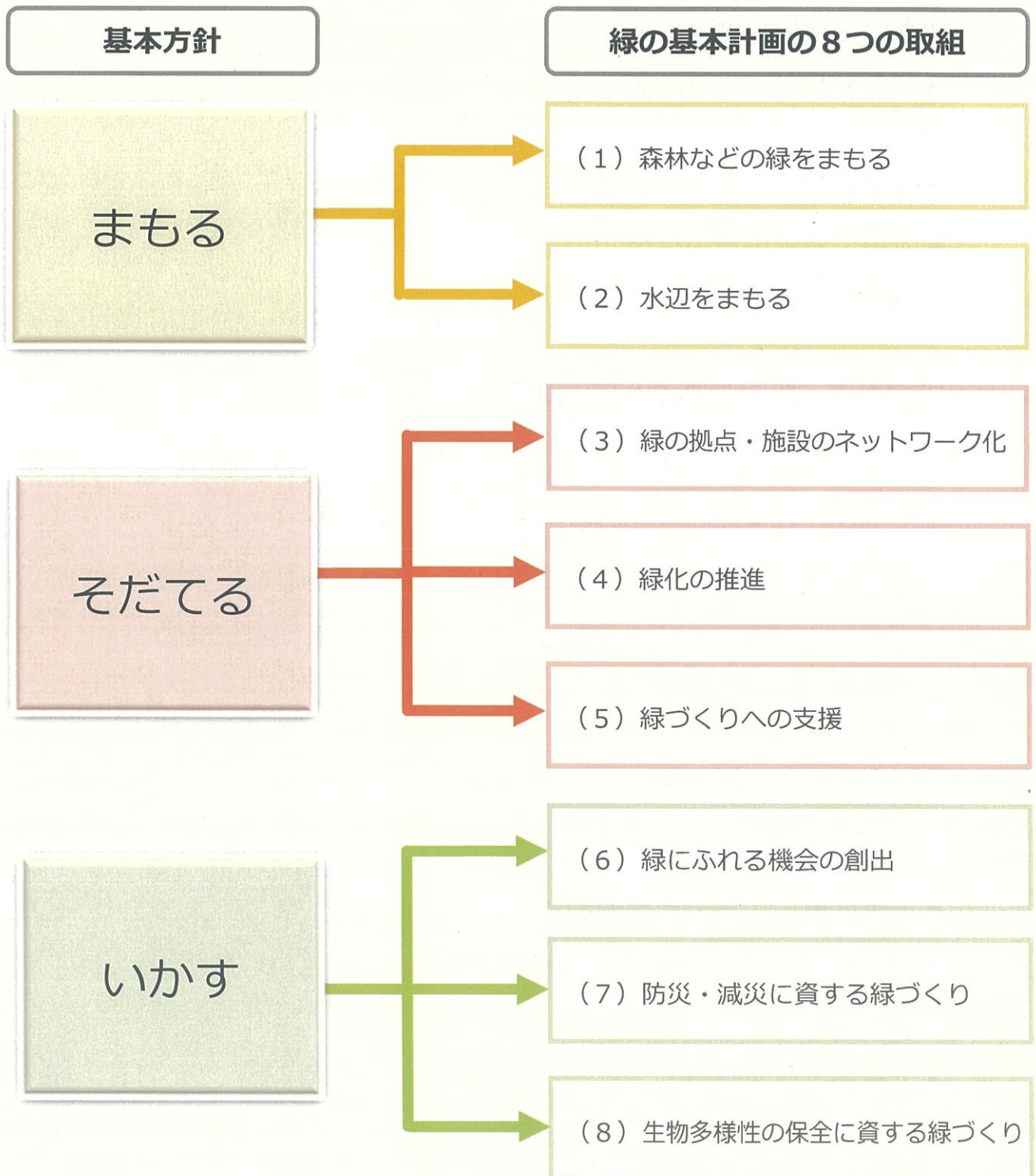
・石狩川～世田豊平川～屯田川～屯田兵村林～湯川公園～野幌グリーンモール～天徳寺グリーンモール～駅南グリーンモール～東野幌総合公園～早苗別川～東野幌地区耕地防風林～千歳川からなる南北の緑のネットワークを形成します

○市街地外縁環状ネットワーク

・野幌森林公園～文京台南町公園～酪農学園大学～大森地区鉄道林～大森中央公園～麻別川～世田豊平川～石狩川～千歳川～早苗別川～野幌森林公園からなる市街地を囲む緑のネットワークを形成します

4. 施策の体系（8つの取組）

緑づくりの3つの基本方針を受け、緑地の保全や緑化などの確保・整備に関する取組や、活用方策、仕組みづくりなどの市民協働による取組を8つの取組として体系的に整理し、これに基づく総合的な緑づくりを進めていきます。



5.想定される取組内容（主なもの）

（1）森林などの緑をまもる

- 野幌森林公園の緑の保全
- 市街地を取りまく緑の保全
- 身近な緑の保全
- 脱炭素社会の実現のための緑の保全

（2）水辺をまもる

- 河川・湖沼の緑の保全
- 河畔林の保全

（3）緑の拠点・施設のネットワーク化

- 緑の拠点となる公園などの整備や保全
- 河川等水辺空間のネットワークの充実
- 公園と歩道による、日常生活の快適な移動ネットワーク維持
- コンパクトなまちづくりに対応した、公園施設の整備や適正配置の検討

（4）緑化の推進

- 駅前や公共施設、商業施設敷地や沿道の緑化や花づくり
- 公共空間での緑化の推進
- 市民協働による公園整備や維持管理の推進
- 道路の緑化と適正な維持管理
- 住宅地の緑化推進
- 工業地の緑化推進

(5) 緑づくりへの支援

- 緑の保全や緑化活動に対する支援
- 緑に関する技術提供
- 緑と水に関する情報発信の仕組みづくり

(6) 緑にふれる機会の創出

- 野幌森林公園や市街地内の樹林地の活用
- 石狩川や中小河川の活用
- グリーンツーリズムなど農地を活かした農村との交流
- 湖沼や旧河川の河跡湖（三日月湖）の活用
- 施設のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化による、誰もが緑にふれることができる環境づくり
- イベントや自然環境学習を通じた活用
- 冬季も緑にふれることができる環境づくり

(7) 防災・減災に資する緑づくり

- 避難場所としての防災機能の充実
- 緑道、歩道など避難路としての防災機能の充実
- 延焼防止帯となるグリーンベルトの確保

(8) 生物多様性の保全に資する緑づくり

- 森林や河川・湖沼の野生生物生息環境の保全
- 野生生物との共存
- 生態系ネットワークを担う河川や公園の樹林地の保全

次期江別市緑の基本計画の策定について

検討のための基礎資料

1. 第7次江別市総合計画	1
2. 江別市都市計画マスタープラン	3
3. 北海道みどりの基本方針	6
4. 市民の意識・意向から	7
5. 緑づくりをとりまく動向	12

1. 第7次江別市総合計画

《まちづくりの基本理念》

① いつまでも元気なまち

全ての人と経済が元気でいられるよう、福祉や医療の充実をはじめ、文化やスポーツなどの生涯を通じて取り組める活動を盛り上げ、健康と心の豊かさを保つとともに、地域経済を支える産業の活性化に取り組み、誰もが健康でにぎわいのあるまちを目指します。

② みんなで支え合う安心なまち

みんなが手を取り合って安心して暮らせるよう、人と人とのつながりを大切にした協働の取組を充実させるとともに、地域防災力の向上に取り組み、安全で安心な生活を送ることができるまちを目指します。

③ 子どもの笑顔があふれるまち

いつも子どもが笑顔でいられるよう、安心して産み育てられる環境を整えるとともに、子どもがいきいきと学べる環境づくりに取り組み、健やかに成長するまちを目指します。

④ 自然とともに生きるまち

人と自然がともに生きることができるよう、野幌森林公園や石狩川などの身近に感じられる豊かで美しい自然を守るとともに、地球環境に配慮した取組を行い、環境にやさしいまちを目指します。

⑤ 新しい時代に挑戦するまち

社会や経済が変化する中でも、住みやすいまちであり続けられるよう、デジタル技術を活用した取組などの新たな分野に挑戦するとともに、市民、企業、行政が一体となって、新しい価値を創造するまちを目指します。

I 検討のための基礎資料

《将来都市像》

第6次江別市総合計画の将来都市像
みんなでつくる未来のまち えべつ

『幸せが未来へつづくまち えべつ』

江別市は、これから本格的な少子高齢・人口減少が進み、社会経済のおおきな変革期を迎えようとしています。

そうした中でも、住みやすく、魅力的なまちであり続けるため、まちづくりの基本理念に基づき、みんなで支え合い、安心して暮らせる共生のまちを目指して、江別市に関わる全ての人々が幸せを実感し、その幸せが未来へ続くまちづくりを進めていきます。

《まちづくり政策》

政策01 自然・環境

6次江別市総合計画の基本目標
きれいな空気、清らかな水、豊かな緑に恵まれた美しく住みよいえべつを目指します

豊かな自然とともに暮らす、環境にやさしく、美しいまち

政策05 都市基盤

暮らしやすさを実感できるえべつに向けて都市基盤の形成をめざします

いつまでも暮らしやすく、便利で快適なまち

1. 第7次江別市総合計画

政策01 自然・環境

豊かな自然とともに暮らす、環境にやさしく、美しいまち

政策展開の方向性

江別市の豊かな自然や地域環境を次代に引き継ぐために、脱炭素社会の実現をはじめ、水と緑の保全や、地域環境の保全、ごみの減量化・資源化などへの課題に対応するとともに、市民、事業者、行政との協働により、環境保全に取り組み、安全で快適な生活環境づくりを進めます。

取組の基本方針

(1)脱炭素社会の実現	市民、事業者、行政が、脱炭素社会の実現に向けて、環境負荷の少ない、地球にやさしい生活・活動を行うことにより、地球環境の保全に努めます。
(2)水と緑の保全	市民、事業者、行政が協働して身近な緑の保全に努め、緑を守り活用する取組を進めるとともに、河川や湖沼などがもたらす良好な自然環境を守ります。
(3)安全な地域環境の保全	大気、水質、騒音、悪臭などの環境問題に適切に対応するとともに、市民・事業者に対して情報を提供することにより、産業型公害や都市・生活型公害の発生を未然に防ぎ、安全な地域環境を守ります。
(4)再生可能エネルギーの導入拡大と利用推進	再生可能エネルギーの導入を拡大するとともに、地域における再生可能エネルギーの地産地消の取組や市有施設での活用などを推進します。
(5)環境教育・学習の推進	環境についての学習機会や情報の提供を通じて、市民、事業者が環境に対する責任と役割を自覚し、環境保全のための取組の意欲と能力を高めます。

I 検討のための基礎資料

政策05 都市基盤

いつまでも暮らしやすく、便利で快適なまち

政策展開の方向性

計画的な市街地整備による機能的な都市づくりを進めていくほか、安全で快適な道路環境の確保と公共交通の活性化などによる交通環境の充実を図るとともに、デジタル技術などの活用による市民サービスの利便性や、行政事務の生産性の向上に取り組むことで、全ての市民が暮らしやすく、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

取組の基本方針

安全で快適な公園環境づくり	誰もが、安全に安心して利用できるよう、市民との協働による公園の再整備や維持管理、利用者ニーズを取り入れた施設改築などを計画的に進め、健康と心の豊かさを保つ公園環境づくりを進めます。
---------------	--

2. 江別市都市計画マスタープラン

都市計画マスタープランは、公園緑地を含む都市づくりに関する各分野の方針を、「土地利用の方針」、「都市施設整備の方針」、「都市環境の方針」の3本柱での設定を検討中です。

そのうち、緑づくりに関しては、主に「1.土地利用の方針」の「1-5.市街地周辺部」、「2.都市施設整備の方針」の「2-4.公園緑地」、「3.都市環境の方針」全般が関連します。

《分野別構想》

1.土地利用の方針

- 1-1.拠点
- 1-2.住宅地
- 1-3.幹線道路沿道地
- 1-4.工業地・商業業務地
- 1-5.市街地周辺部**

2.都市施設整備の方針

- 2-1.道路
- 2-2.公共交通
- 2-3.公共・公益施設等
- 2-4.公園緑地**
- 2-5.上下水道・供給処理施設

3.都市環境の方針

- 3-1.都市防災**
- 3-2.景観**
- 3-3.環境共生**

2. 都市計画マスタープラン（土地利用の方針・都市施設整備の方針）

1-5. 市街地周辺部

1. 農業地

- 優良な農地を保全し、食料生産基地とする土地利用
- グリーンツーリズムの推進による、市民と農業者の交流

2. 河川敷地

- 治水機能や生態系の維持のための保全・活用
- かわまちづくりなど親水空間の創出

3. 野幌森林公園 ～ 緑の要として位置付け

- 自然環境の保全と活用
- 隣接地での自然環境を活かした土地利用

2-4. 公園緑地

- 既存施設の長寿命化、計画的な施設整備や適正配置について検討
- 市民協働による維持管理
- 市民ニーズを踏まえた施設整備
- 指定緊急避難所など、防災施設としての役割

2. 都市計画マスタープラン（都市環境の方針）

3-1. 都市防災

1. 地震に強い施設設備

- 公園の指定緊急避難場所機能などの確保

2. 火災に強い施設設備

- 延焼防止帯となるオープンスペースの確保

3-2. 景観

1. 市街地景観

- 住宅地：れんがと緑のある住宅づくり
- 工業地：企業と一体となって道路や工場敷地などの緑化の推進

2. 郊外の景観

- 野幌森林公園や河川、河畔林など、市民協働により保全

3-3. 環境共生

1. 水と緑の保全

- 協働による野幌森林公園や石狩川などの資源の適正な保全

2. 水と緑の創造、活用

- 水と緑のネットワーク形成
- 多様な観点から、水と緑の空間を市民協働で創造
- 市街地開発等において、身近な緑の創造
- 身近な緑や水辺を所有者や関係機関等との連携を図りながら適正に活用

3. 環境

- 野幌森林公園、耕地防風林、河畔林などの自然環境の保全による脱炭素化

3. 北海道みどりの基本方針（H31）

次期江別市緑の基本計画の策定にあたり、参考になる考え方を抽出 ※詳しくは別紙配布資料参照

これからの都市の「みどり」のあり方について

○「量を確保する時代」から、「質を向上する時代」へ

- ・「みどり」が持つストック効果（多面的な機能・効果）の創出
- ・人口減少・高齢化に対応した持続可能な都市づくりに向けた取り組み

○官と民の連携による取り組み

- ・これまでの取り組みを更に一歩進め、民の力・知見を最大限に活かし、市民や事業者が主体的に緑の管理運営に関わる

○緑を柔軟に使いこなす取り組みの実践

- ・画一的な整備・管理運営とならないよう、地域の特性やニーズを十分に把握、反映
- ・緑地と子育て支援、福祉、農業など、多様な分野の取り組みとの連携

緑の基本計画の策定・改訂にあたって

以下の観点で計画の内容を充実化・高度化させることが重要。

○「みどり」が持つストック効果

- ・今ある緑の多面的な機能・効果を最大限に発揮させる考え方が重要



にぎわいの場
大通公園（札幌市）



美しい景観の創出
あさひかわ北彩都ガーデン（旭川市）

○都市公園をより柔軟に使いこなす

- ・単なるレクリエーションの場としてだけでなく、例えば公園内に子育て支援の拠点や歴史・文化の継承拠点をつくるなど、様々な観点で公園を使いこなす役立てていく考え方が重要

4. 市民の意識・意向から

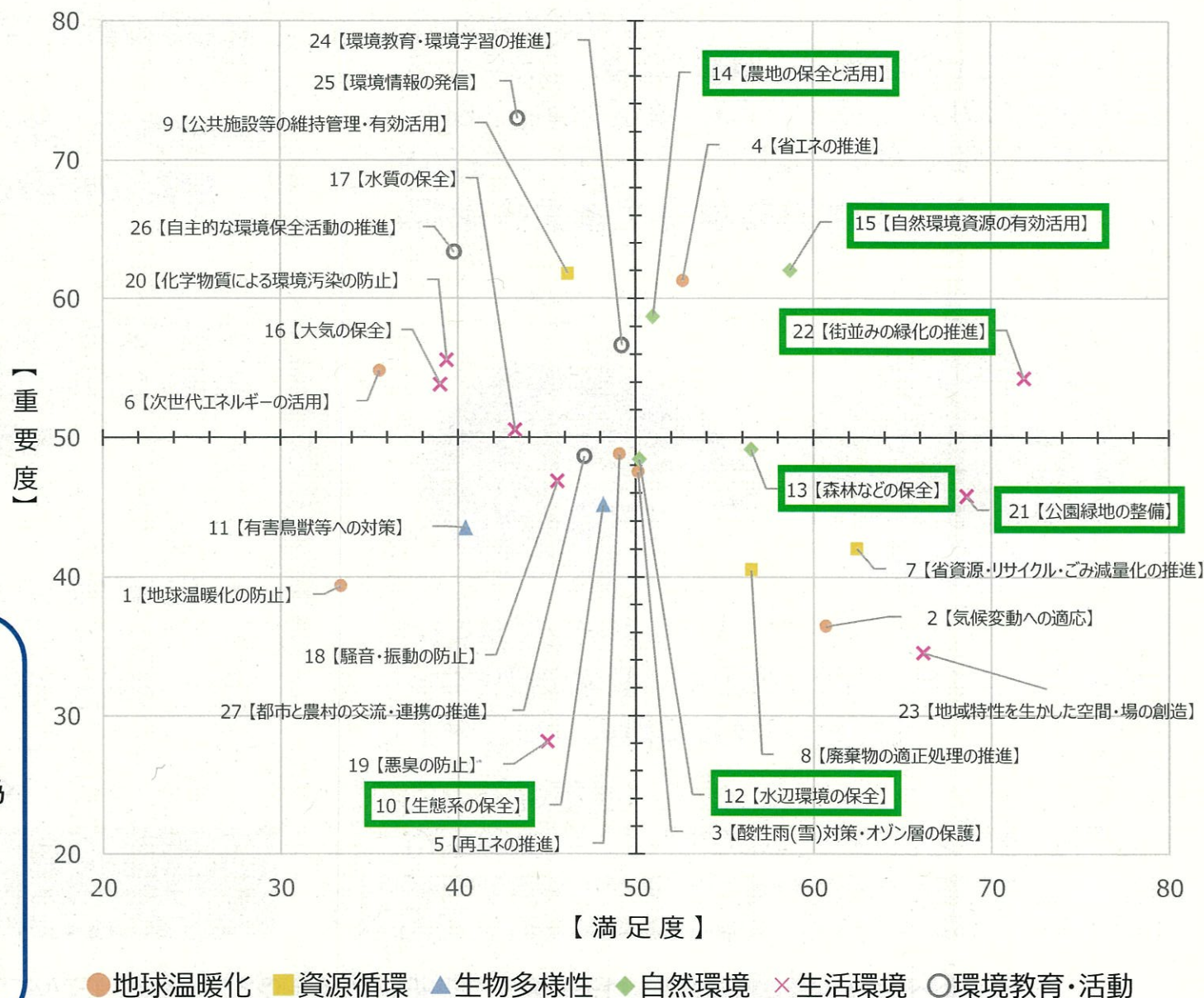
■江別市の環境に関する市民アンケート（令和4年度）より

【緑づくりに関する満足度・重要度】

- ・緑づくりに関する取組みの満足度、重要度をみると、満足度、重要度ともに高い項目は、「農地の保全と活用」、「自然環境資源の有効活用」、「街並みの緑化の推進」となっています。
- ・一方、満足度が低いにも関わらず市民の重要度が高い（分布図の左上にある）項目は、緑づくりの分野では特に見られません。

江別市の環境に関する 市民アンケート実施概要

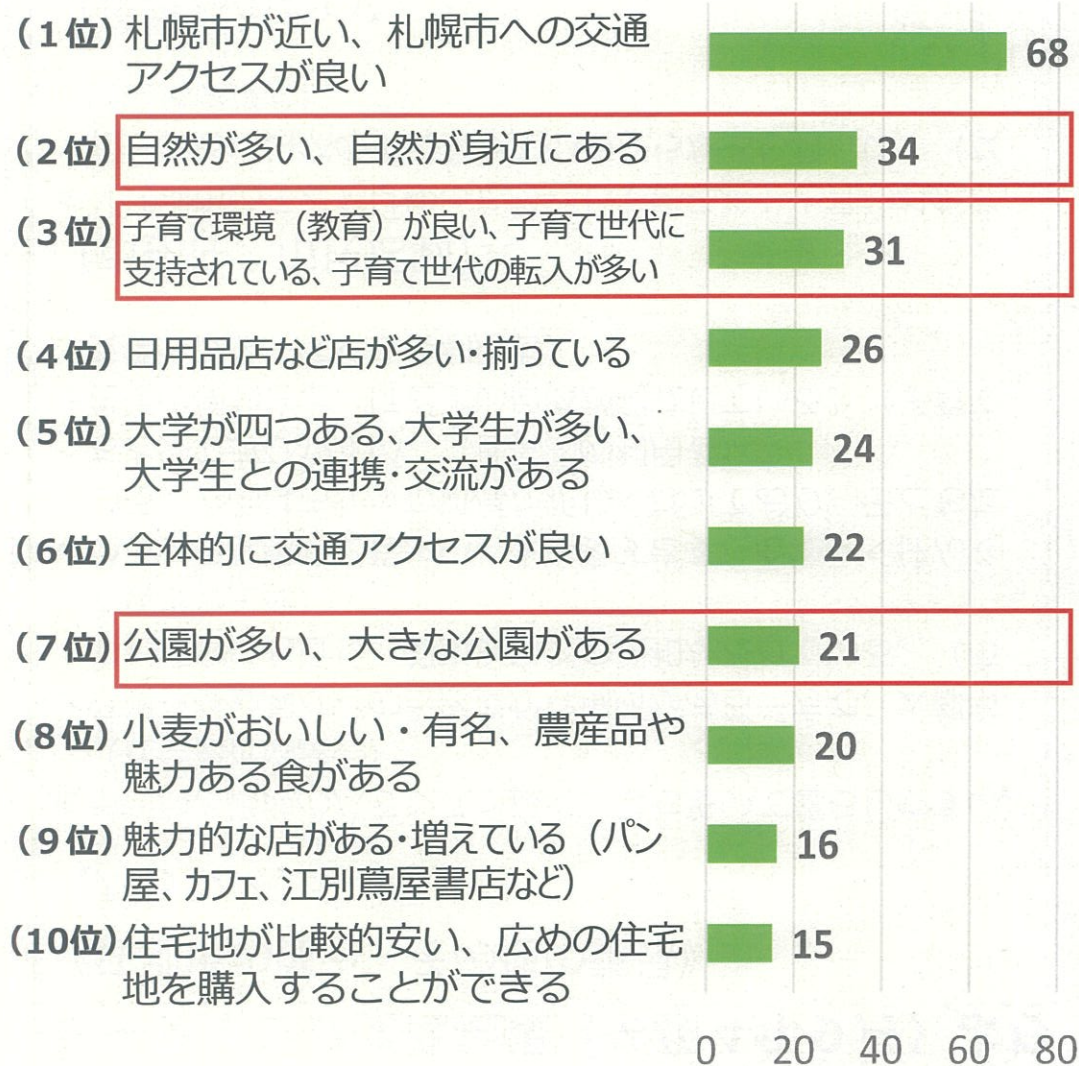
- 調査時期：令和4年7月
- 対象：18歳以上の市民から無作為抽出した1,800人
- 回収率：30.2%（回収数392）



4. 市民の意識・意向から

■第7次江別市総合計画策定に係るえべつの未来づくり ミーティング開催結果（令和4年9月）より

【江別市の「強み」】



※数字は、各ミーティングの中で関連する意見があった回数です。

《主な意見》

（2位）自然が多い、自然が身近にある

- 自然が豊か。（シルバー人材センター）
- 自然がすぐそばにある。（市内企業の経営者）
- 野幌森林公園など身近に自然がある。（市内大学の学生）
- 野幌原始林があるなど自然環境が良いところ。（かけはしの会）
- 定年退職された高齢の方が多いが、自然の中で犬と散歩している姿などを見ると、自然環境の良さを感じる。（J A道央・J A道央青年部）
- 大自然が残されていること。野幌森林公園はすばらしい。（大麻地区自治会連絡協議会）
- 野幌の原始林、石狩川、農業と住宅地のバランスなど、環境が良いことが強み。（身体障害者福祉協会）

（3位）子育て環境（教育）が良い、・・・

- 野幌公園、飛鳥山公園、四季のみちもあり、子育て世代には良い環境だと思う。（青年会議所）
- 江別市は緑が多くて、広々としており、子育て環境が良い。（聴力障害者協会）

（7位）公園が多い、大きな公園がある

- 江別には、大きな公園が多いことが強み。（自立支援協議会）
- いろいろな公園に行くことができる。（女性団体協議会）
- 公園が多く、規模の大きい公園もある。（社会福祉協議会）
- 比較的大きな規模の公園もあり、子どもを育てるには良い環境だと感じている。（身体障害者福祉協会）
- 公園が多い。遊びやすい公園が増えていると感じている。（子育て支援センターすくすく利用者）

■第7次江別市総合計画策定に係るえべつの未来づくり ミーティング開催結果（令和4年9月）より

《江別市の強み・その他の意見》

【バランス】

- 市街地と緑地のバランスが良く、落ち着いて暮らしやすい。（社会福祉協議会）
- 野幌森林公園などの自然豊かな場所がある一方で、大都市の札幌市にも近く、都市と自然の調和がとれている。（市内高校の生徒）
- いろいろな意味で程よい。人も多すぎず、心地よく住んでいる。公園は古かった遊具が新しくなっており、子どもたちと外で遊びやすい。（保育園の利用者）
- 生活の便利さと、ほどよい自然が両立している。（子育て支援センターすくすく利用者）

【市民性、市民活動】

- 「江別市の子どもはゆったりとしているね」と言われたことがある。自然の中で育っているからかもしれない。（女性団体協議会）

【災害が少ない】

- 札幌市に近く、緑や公園が多く、山が近くになく海もないので、自然災害が少なく、安心して生活できる。（私立幼稚園PTA連合会）

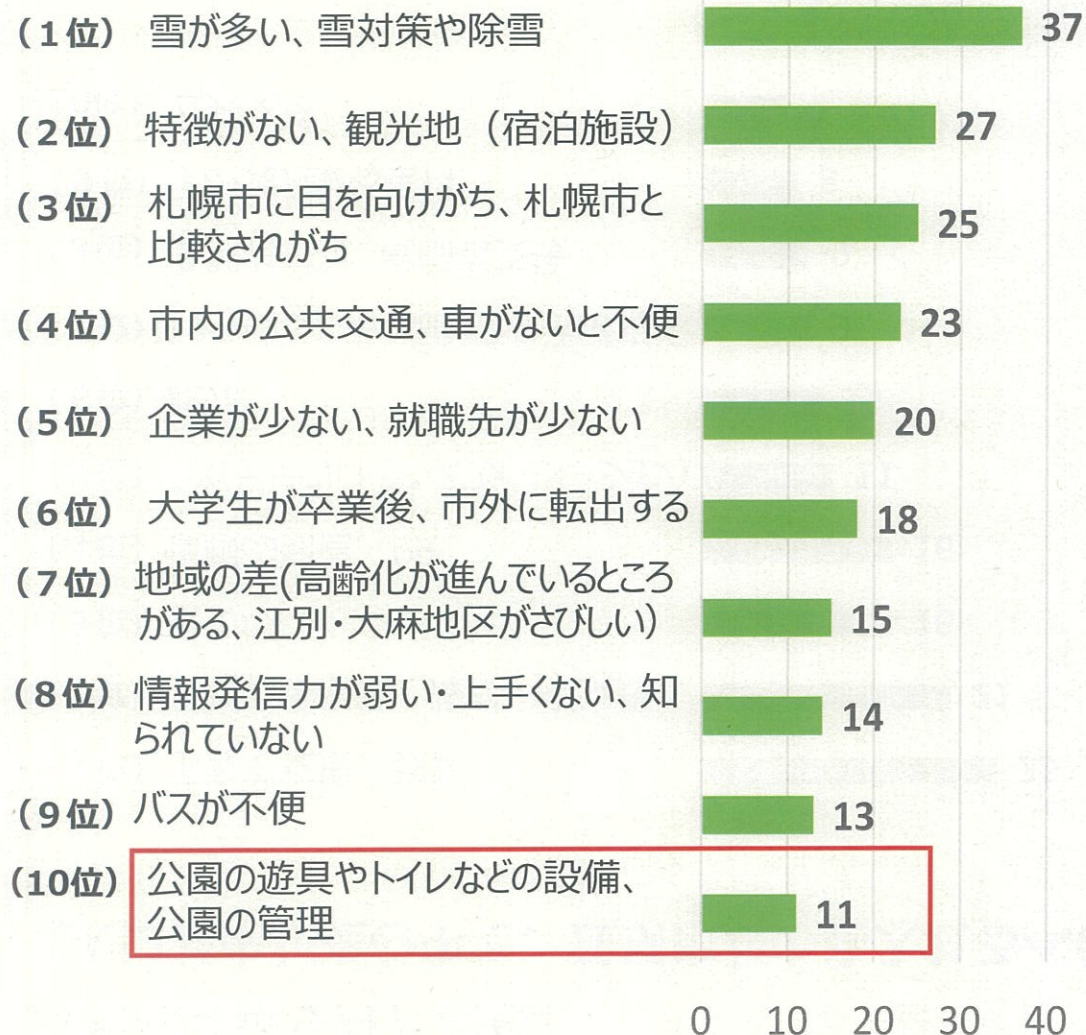
【景色、景観】

- 森林公園、四季のみちのほか、イチヨウ並木や桜並木、ナナカマドなどの樹木がきれいな景色もたくさんある。江別市の良さをもっとアピールしてほしい。（女性団体協議会）
- 空が広い。どこにでも緑があって、落ちついて過ごせる。面積的にもゆとりがあって過ごしやすい。（SOGIの会）

4. 市民の意識・意向から

■第7次江別市総合計画策定に係るえべつの未来づくり ミーティング開催結果（令和4年9月）より

【江別市の「弱み」】



《主な意見》

(第10位) 公園の遊具やトイレなどの設備、公園の管理

- 大きな公園はあるが、大きな遊具のある公園は少ない。（市内企業の若手職員）
- 緑が多く、公園もたくさんあるが、小さな子どもが安全に遊べる遊具は少ない。（市内企業の若手職員）
- 湯川公園は、昔は水辺にいろいろな生物がいたが、今は水が汚れてきていると感じる。きれいな水が流れる公園にしてほしい。（子育て支援センターすくすく利用者）
- 乳幼児が遊べる遊具が少ない。（子育て支援センターすくすく利用者）

《その他の意見》

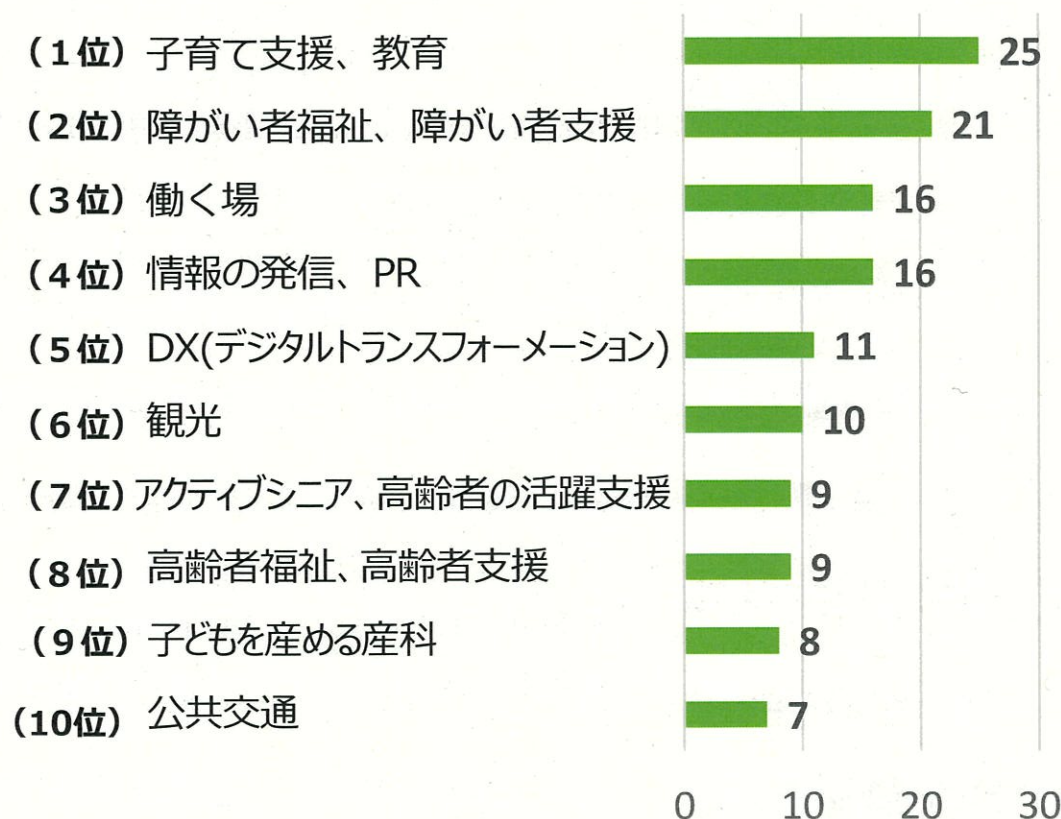
- 公園の遊具は新しくなると小さな子ども用の遊具になっているので、中学生が遊べないものになっている。江別蔦屋書店や大きな公園などはあるが、高校生などの若者が遊べる場所が少ない。（市内高校の生徒）

※数字は、各ミーティングの中で関連する意見があった回数です。

4. 市民の意識・意向から

■ 第7次江別市総合計画策定に係るえべつの未来づくりミーティング開催結果 (令和4年9月) より

【人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野】



※数字は、各ミーティングで関連する意見があった回数です。

《主な意見》

【自然保護】

- 自分が江別市を選んだ理由は、自然が多いこと。緑や自然を壊さないでほしい。(江別地区自治会連絡協議会)
- 環境に力を入れてほしい。江別市は人口の多い東京などと違って、自然があり、土地があり、公園が多くあるので、施設を作って人を呼び込んではどうだろうか。(市内高校の生徒)

【景観】

- 農村の風景を大事にしてほしい。農村の景観保全に力を入れてほしい。(市内企業の経営者)

【公園】

- 子どもたちが歩いて行ける、あるいは自転車で集まれる、基幹になる公園の整備を進める一方、そうでない公園は転用が必要では。(江別市PTA連合会)
- 子ども目線で、どんな公園が必要なのかを考えるべきで、大人から与えられた公園ではなく、子どもが欲しい公園をつくるのが大事。(江別市PTA連合会)
- 市民が集えるような空間を野幌森林公園の入口近くにつくり、野幌森林公園を生かしたまちづくりと産業の誘致などを進めたら、未来がひらけるのではないだろうか。(大麻地区自治会連絡協議会)

○第五次環境基本計画



第五次環境基本計画における施策の展開

- ・国では、環境基本法に基づき環境の保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱等を定める第五次環境基本計画を平成30年に閣議決定。
- ・SDGs、パリ協定などの国際的な潮流を踏まえ、分野横断的な6つの重点戦略（経済、国土、地域、暮らし、技術、国際）を設定。
- ・特に「国土」、「地域」、「暮らし」において、緑づくりに関連する取組みが位置づけられている。

- 分野横断的な**6つの重点戦略を設定**。
- **パートナーシップ**の下、環境・経済・社会の**統合的向上を具体化**。
- **経済社会システム、ライフスタイル、技術等あらゆる観点からイノベーションを創出**。

6つの重点戦略

①持続可能な生産と消費を実現する グリーンな経済システムの構築

- ESG投資、グリーンボンド等の普及・拡大
- 税制全体のグリーン化の推進
- サービサイジング、シェアリング・エコノミー
- 再エネ水素、水素サプライチェーン
- 都市鉱山の活用 等



洋上風力発電施設
(H28環境白書より)

③地域資源を活用した持続可能な地域づくり

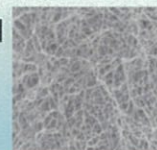
- 地域における「人づくり」
- 地域における環境金融の拡大
- 地域資源・エネルギーを活かした収支改善
- 国立公園を軸とした地方創生
- 都市も関与した森・里・川・海の保全再生・利用
- 都市と農山漁村の共生・対流 等



バイオマス発電所
(H29環境白書より)

⑤持続可能性を支える技術の開発・普及

- 福島イノベーション・コースト構想→脱炭素化を牽引（再エネ由来水素、浮体式洋上風力等）
- 自動運転、ドローン等の活用による「物流革命」
- バイオマス由来の化成品創出（セルロースナノファイバー等）
- AI等の活用による生産最適化 等



セルロースナノファイバー
(H29環境白書より)

②国土のストックとしての価値の向上

- 気候変動への適応も含めた強靱な社会づくり
- 生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）
- 森林環境税の活用も含めた森林整備・保全
- コンパクトシティ・小さな拠点＋再エネ・省エネ
- マイクロプラを含めた海洋ごみ対策 等



土砂崩壊防備保安林
(環境省HPより)

④健康で心豊かな暮らしの実現

- 持続可能な消費行動への転換（倫理的消費、COOL CHOICEなど）
- 食品ロスの削減、廃棄物の適正処理の推進
- 低炭素で健康な住まいの普及
- テレワークなど働き方改革＋CO2・資源の削減
- 地方移住・二地域居住の推進＋森・里・川・海の管理
- 良好な生活環境の保全 等



森里川海のつながり
(環境省HPより)

⑥国際貢献による我が国のリーダーシップの発揮と 戦略的パートナーシップの構築

- 環境インフラの輸出
- 適応プラットフォームを通じた適応支援
- 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」シリーズ
- 「課題解決先進国」として海外における「持続可能な社会」の構築支援 等



水銀に関する水俣条約
第1回締約国会議
に出席した環境大臣



重点戦略②：国土のストックとしての価値の向上

- 環境に配慮するとともに、経済・社会的な課題にも対応するような国土づくりを行う。
- 都市のコンパクト化やストックの適切な維持管理・有効活用による持続可能で魅力あるまちづくりを推進する。
- 自然環境が有する多様な機能を有効に活用した防災・減災力の強化等、環境インフラやグリーンインフラ等を活用し、強靱性（レジリエンス）を向上させる。

（１）自然との共生を軸とした国土の多様性の維持

- 自然資本の維持・充実・活用
 - ・ストックとしての自然資本の持続可能な利用の推進、環境に配慮するとともに経済・社会的な課題にも対応する国土利用の推進
- 森林環境税の活用も含めた森林の整備・保全
 - ・多様で健全な森林づくり
- 生態系ネットワークの構築
- 海洋ごみ対策等の海洋環境の保全
- 健全な水循環の維持又は回復
- 人口減少下における土地の適切な管理と自然環境を保全・再生・活用する国土利用
- 侵略的外来生物への対策



里地里山の保全再生

- 平時から事故・災害時まで一貫した安全の確保
 - ・廃棄物処理システムの強靱化、国土強靱化と低炭素化で統合的な取組を推進

（２）持続可能で魅力あるまちづくり・地域づくり

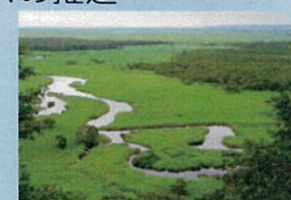
- コンパクトで身近な自然のある都市空間の実現
 - ・コンパクトシティの形成
- 「小さな拠点」の形成
 - ・「集落生活圏」の維持、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入支援
- 交通網の維持・活用等
 - ・複数の公共交通機関の事業者間の連携、自転車の利用促進
- ストックの適切な維持管理・有効活用
 - ・既存のインフラにおける長寿命化、防災機能の向上、省エネルギー化の推進等のストックの価値向上



富山ライトレール
（環境省HPより）

（３）環境インフラやグリーンインフラ等を活用したレジリエンスの向上

- グリーンインフラやEco-DRRの推進
 - ・生態系を活用した防災・減災
- 気候変動の影響への適応の推進
 - ・農業や防災など、各分野における適応の推進 等



湿地再生による洪水緩和（環境省HPより）



環境省
Ministry of the Environment

重点戦略③：地域資源を活用した持続可能な地域づくり

- 地域資源の質を向上させ、地域における自然資本、人工資本、人的資本を持続可能な形で最大限活用する。
- 循環資源や再生可能資源の活用により地域循環共生圏の主要な部分の形成に貢献する。

(1) 地域のエネルギー・バイオマス資源の最大限の活用

○地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入

- ・地域のエネルギー収支の改善、災害時のレジリエンスの向上

○地域新電力の推進

○営農型太陽光発電の推進

○未利用系バイオマス資源を活用した地域づくり

- ・木質バイオマス資源を自立分散型エネルギーとして活用

○廃棄物系バイオマスの活用をはじめとした地域における資源循環

- ・リユース、リサイクルなどの循環資源、再生可能資源を地域で循環利用



ソーラーシェアリング
(環境省HPより)

(2) 地域の自然資源・観光資源の最大限の活用

○国立公園等を軸とした地方創生

- ・世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化
地域経済の活性化と自然環境保全の好循環の創出

○エコツーリズムなど各種ツーリズムの推進

- ・地域固有の自然資源などを活かした持続的な地域づくりの推進、グリーンツーリズムやブルーツーリズム等の取組の推進

○自然に育まれた多様な文化的資源の活用

- ・地域の自然に根ざした風土、地域固有の多様な歴史や文化の継承・活用

○環境保全や持続可能性に着目した地域産業の付加価値向上

- ・自然資本を活用した6次産業化の促進

○抜本的な鳥獣捕獲強化対策

- ・捕獲従事者の育成・確保、獣種の特性に応じた捕獲対策の推進



阿寒摩周国立公園
(環境省HPより)

(3) 都市と農山漁村の共生・対流と広域的なネットワークづくり

○森・里・川・海をつなぎ、支える取組

- ・森・里・川・海の地域資源の持続的な活用

○都市と農山漁村の共生・対流

- ・都市と農山漁村の相互貢献による共生

○人づくりによる地域づくり

- ・多様なステークホルダーとの連携を図りながら、持続可能な地域づくりを担う人づくりを行う

○地域における環境金融の拡大

- ・地域金融機関等における環境金融に係る理解の促進



自然体験行事の様子
(環境省HPより)



重点戦略④：健康で心豊かな暮らしの実現

- **ライフスタイルのイノベーション**を創出し、環境にやさしく、健康で質の高いライフスタイル・ワークスタイルへの転換を図る。
- **森・里・川・海**などの自然の価値を再認識し、人と自然、人と人のつながりを再構築する。
- 人々の健康と心豊かな暮らしを脅かす**環境リスク**を評価し、予防的取組を推進する。

(1) 環境にやさしく健康で質の高い生活への転換

○持続可能なライフスタイルと消費への転換

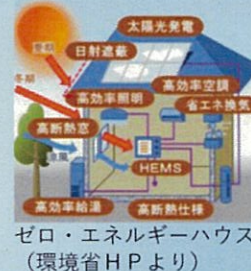
- ・人・社会・環境に配慮した消費行動の促進 等

○食品ロスの削減

- ・食品ロス削減に関する目標の設定、食品ロスの発生量の把握等の推進 等

○低炭素で健康な住まい

- ・ZEHの普及の推進、高齢者向け住宅等の高断熱・高気密化の推進 等



○徒歩・自転車移動等による健康寿命の延伸

- ・温室効果ガスの削減、健康増進や混雑緩和への貢献 等

○テレワークなど働き方改革等の推進

- ・通勤交通に伴うCO₂排出や紙の使用量の削減、環境面における効果の「見える化」 等

(2) 森・里・川・海とつながるライフスタイルの変革

○自然体験活動、農山漁村体験等の推進

- ・自然体験のための社会的なシステムを構築 等

○森・里・川・海の管理に貢献する地方移住、二地域居住等の促進

- ・二地域生活・二地域居住や地方移住に必要な一元的な情報提供や相談支援の充実の推進 等

○新たな木材需要の創出及び消費者等の理解の醸成の推進

- ・CLTなど木材の利用拡大、「木づかい運動」や「木育」の推進 等



「つなげよう、支えよう森里川海アンバサダー」任命式（環境省HPより）

(3) 安全・安心な暮らしの基盤となる良好な生活環境の保全

○健全で豊かな水環境の維持・回復

- ・生物の生息・生育環境の評価、維持・回復 等

○国内外の総合的な対策等

○廃棄物の適正処理の推進

- ・廃棄物処理施設の高度化、広域化・集約化、長寿命化排出事業者責任の徹底、高齢化社会対応 等

○化学物質のライフサイクル全体での包括的管理

- ・化学物質の適正な利用の推進 等

○マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策の推進

- ・実態把握調査、回収処理・発生抑制対策、国際連携の推進 等

○ヒートアイランド対策

5. 緑づくりを取り巻く動向

○SDGs（持続可能な開発目標）

- ・「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）」とは、平成27（2015）年に国連サミットで採択された「持続可能でより良い世界を目指す」平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標です。
- ・全部で17の目標が掲げられており、江別市の緑づくりについては
 - ⑪住み続けられるまちづくりを
 - ⑬気候変動に具体的な対策を
 - ⑮陸の豊かさを守ろうが関連づけられます。



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



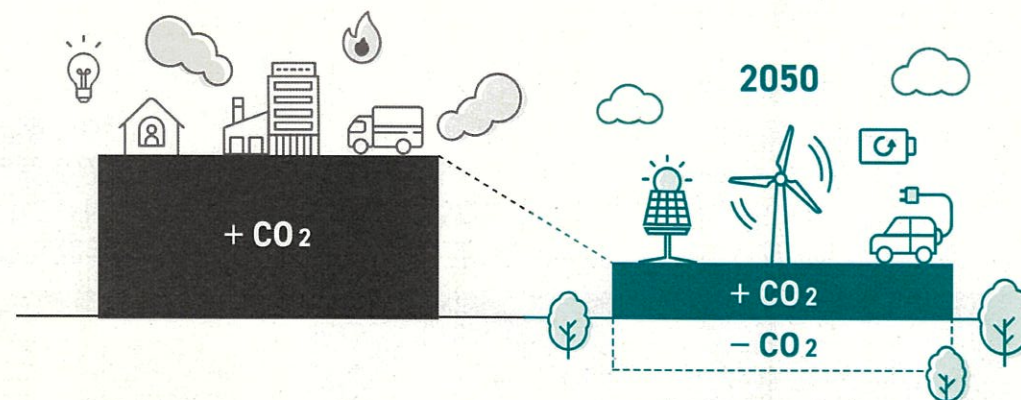
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

5. 緑づくりを取り巻く動向

○脱炭素まちづくり

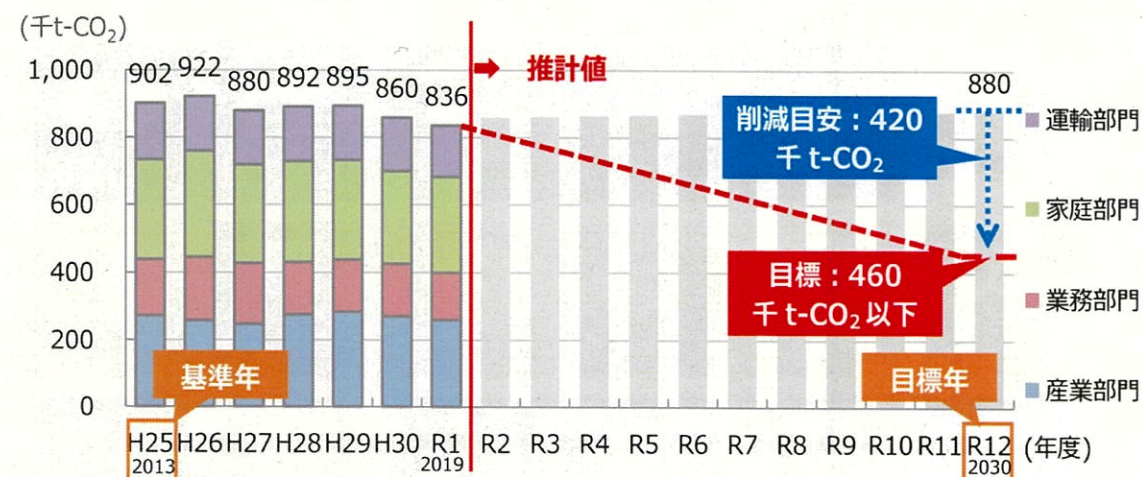
- ・2020年国では、パリ協定の目標達成に向け、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。
- ・昨今は2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを表明した地方公共団体が増えつつあり、令和4年12月28日までに国内823自治体（45都道府県、476市、20特別区、239町、43村）が自治体が「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しています。
- ・緑づくりに関しては、主に森林の保全・育成による二酸化炭素吸収源の確保の取り組みが関連しています。
- ・江別市においても、脱炭素化に積極的に取り組む自治体として、地球温暖化対策実行計画を兼ねた新たな江別市環境管理計画の策定を進めています。

I 検討のための基礎資料



資料：脱炭素ポータルホームページ

カーボンニュートラルのイメージ



資料（実数）：「部門別CO₂排出量の現況推計」（環境省 R4.4）

江別市の温室効果ガス排出量（エネルギー期限）の推移

○少子高齢化対応

- ・国では、高齢化社会の対応した施設整備を各種法制度により1990年代から推進しています。（ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリー新法）
- ・ユニバーサルデザイン化の取組みは、平成17年の「ユニバーサルデザイン政策大綱」以降、様々な取組みが進められています。平成29年には、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、ユニバーサルデザイン化・心のバリアフリーを推進する「ユニバーサルデザイン2020（行動計画）」をとりまとめ、競技会場の周辺エリア等における都市公園のバリアフリー化も進められました。

ユニバーサルデザイン・・・あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

バリアフリー・・・高齢者・障害者等が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁などすべての障壁を除去するという考え方

○コンパクトなまちづくり

- ・人口減少への対応として、各自治体では公共施設の再編やPRE(公的不動産)の有効活用が検討されており、公園施設の整備や適正配置の検討が必要と考えられます。
- ・また、コンパクトなまちづくりを具体的に進める計画として「立地適正化計画」制度が創設されており、江別市でも現在策定を進めています。

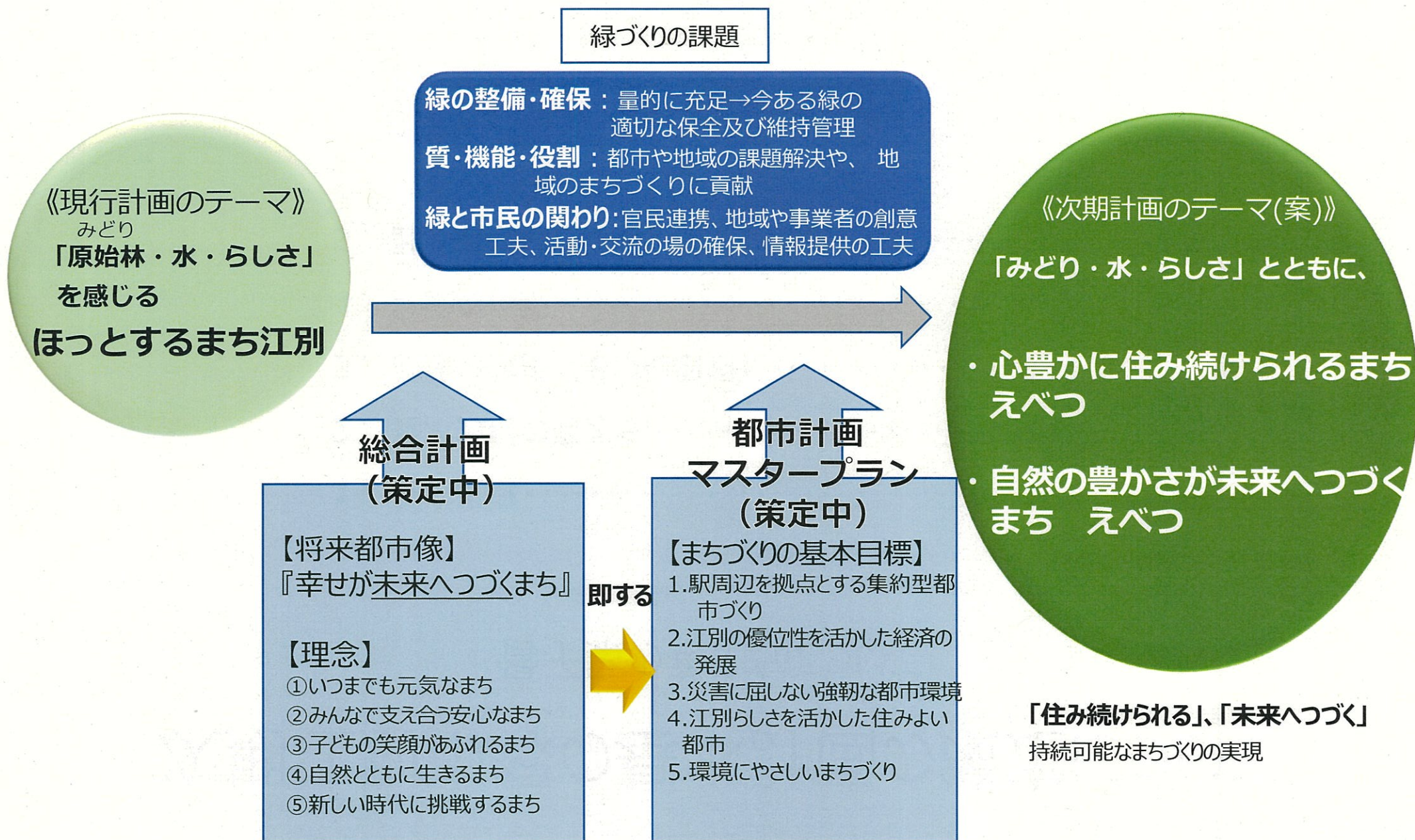
次期江別市緑の基本計画の策定について

骨子案の考え方について

1. 基本理念	1
2. 基本方針の考え方	2
3. 施策の体系（8つの取組）	3
4. 計画の体系	4
5. 計画の構成（現行計画との比較）	5

1. 基本理念

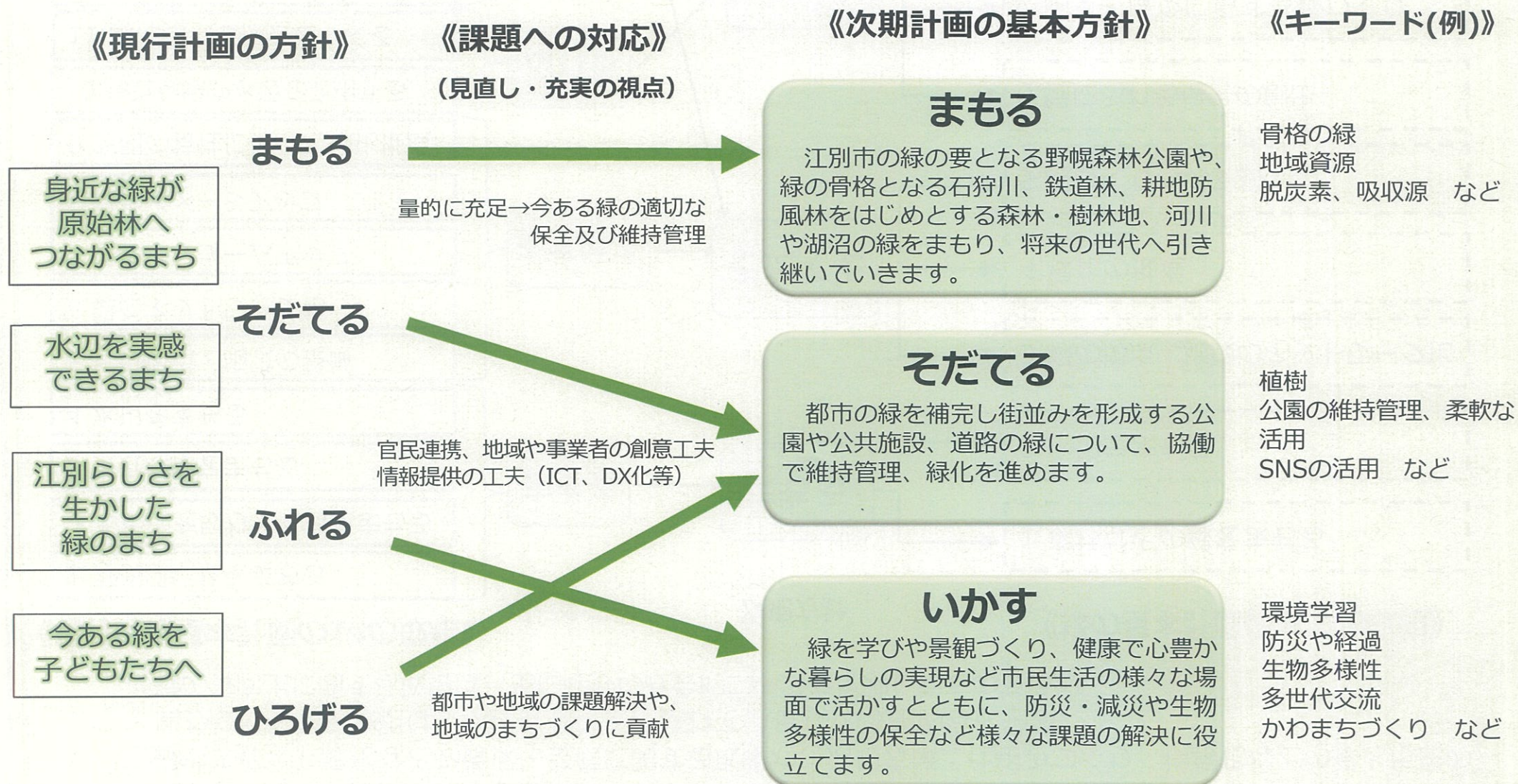
Ⅱ 緑の基本計画の骨子（案）



2. 基本方針の考え方

II 緑の基本計画の骨子（案）

社会経済情勢の変化を受け、緑づくりをとりまく背景・課題も変わってきており、現行の方針から、「量から質へ」の視点で考える必要があります。



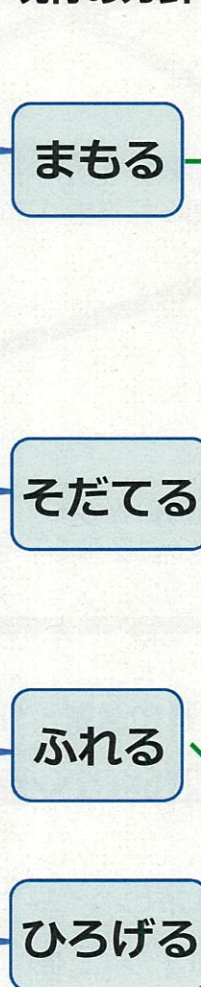
3. 施策の体系（8つの取組）

- 緑地の保全や緑化などの確保・整備に関する取組や、活用方策、仕組みづくり、情報化などの緑と市民の関わりに関する取組は、現行計画に掲載されている14の取組内容を踏襲。
- 緑の質向上に関する取組は、主に昨今の社会的ニーズを反映したものを追加。

《現行緑の基本計画の14の取組》

- 1.野幌原始林をまもる
- 2.市街地を取り巻く緑をまもる
- 3.身近な緑をまもる
- 4.水辺をまもる
- 5.緑の拠点・施設の整備
- 6.緑のネットワーク化
- 7.緑のボリュームアップ
- 8.緑のイメージアップ
- 9.空間の特性に応じた緑化推進
- 10.身近な緑や水辺を活用する
- 11.緑にふれる機会をつくる
- 12.緑づくりを支援する
- 13.仕組みづくりを進める
- 14.情報化を進める

現行の方針

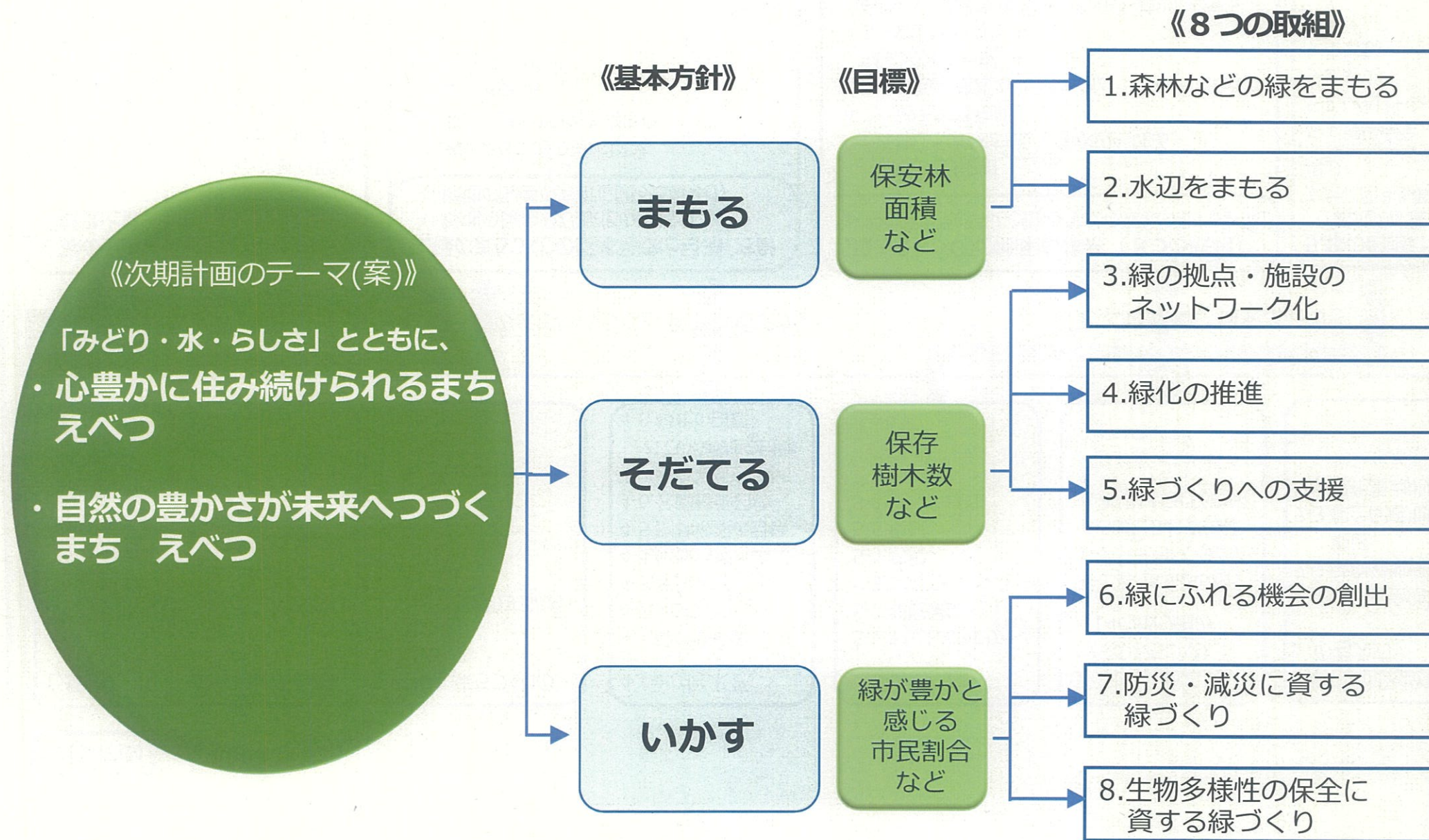


次期方針



《緑の基本計画の8つの取組》

- 1.森林などの緑をまもる
- 2.水辺をまもる
- 3.緑の拠点・施設のネットワーク化
- 4.緑化の推進
- 5.緑づくりへの支援
- 6.緑にふれる機会の創出
- 7.防災・減災に資する緑づくり
- 8.生物多様性の保全に資する緑づくり



5. 計画の構成（現行計画との比較）

II 緑の基本計画の骨子（案）

現行計画

1. 緑の基本計画とは
- 1-1. 背景と目的
 - 1-2. 位置づけ
 - 1-3. 計画範囲
 - 1-4. 計画対象
 - 1-5. 目標年次
 - 1-6. 留意点
 - 1-7. 見直し

2. 江別市の緑の現況
- 2-1. まちのなりたち
 - 2-2. 緑の構成
 - 2-3. 緑の状況
 - 2-4. 緑の課題

3. 緑のまちづくりのテーマ
- テーマを実現するための方針

4. 緑の将来像
- 4-1. 緑の将来像
 - 4-2. まちのイメージ
 - 4-3. 暮らしのイメージ
 - 4-4. 確保目標水準
 - 4-5. 樹林地率の目標
 - 4-6. 公園整備目標
 - 4-7. 法や条例で定められている緑地の目標
 - 4-8. 緑化の目標

5. 緑のあり方
- 5-1. まちとしてのあり方
 - 5-2. 環境保全
 - 5-3. レクリエーション
 - 5-4. 防災
 - 5-5. 景観
 - 5-6. 生物多様性

6. 市民協働による緑のまちづくり14の取り組み
- 6-1. 緑をまもる取組
 - 6-2. 緑をそだてる取組
 - 6-3. 緑にふれる取組
 - 6-4. 緑をひろげる取組

7. 特定地区設定の考え方
- 7-1. 緑地保全地域
 - 7-2. 特別緑地保全地区
 - 7-3. 保全配慮地区
 - 7-4. 緑化重点地区

次期計画

1. 緑の基本計画とは
- 1-1. 背景
 - 1-2. 目的
 - 1-3. 位置づけ
 - 1-4. 範囲と対象
 - 1-5. 計画期間
 - 1-6. 進行管理

2. 江別市の緑の現況と課題
- 2-1. 緑の特性・現状
 - 2-2. 緑をとりまく動向
 - 2-3. 緑の課題

3. 緑のまちづくりの基本理念と目標・方針
（「緑地の保全及び緑化の目標」）
（「緑地の配置の方針に関する事項」）

- 3-1. 緑のまちづくりの基本理念
- 3-2. 基本方針と目標達成指標
- 3-3. 緑の将来像
- 3-4. 緑化の目標

4. 緑のまちづくりの施策の体系（8つの取組）
（「緑地の保全及び緑化の推進のための施策に関する事項」）

- 4-1. 緑をまもる取組
 - ① 森林などの緑をまもる
 - ② 水辺をまもる
- 4-2. 緑をそだてる取組
 - ③ 緑の拠点・施設のネットワーク化
 - ④ 緑化の推進
 - ⑤ 緑づくりへの支援
- 4-3. 緑をいかす取組
 - ⑥ 緑にふれる機会の創出
 - ⑦ 防災・減災に資する緑づくり
 - ⑧ 生物多様性の保全に資する緑づくり

5. 緑の配置計画
（「緑地の配置の方針に関する事項」）

- 5-1. 環境保全
- 5-2. レクリエーション
- 5-3. 防災
- 5-4. 景観

「緑のまちづくりで、何をを目指すか」

「どこの緑で、何をするか」